

談山神社(桜井市)

ここが談山神社



藤原鎌足の廟所/創建は678年



たんざん
談山神社

大化改新祭祥の地
大和国多武峯鎮産

御祭神 藤原鎌足公

藤原鎌足公は推古天皇二十二年(六四四)中臣御食子卿の長子として
大和国高市郡大原に誕生され幼名も鎌子と称した中臣氏の祖は
天兒屋根命にて代々神事を司る家柄であり公はその子代孫に当られる
公は至誠一貫朝廷に仕え皇極天皇の御代には中大兄皇子(孝徳天皇)と共に
当神社木殿裏山の談山に於て国家革新の大業を計りついに西暦六四五(大化改新)に成しとけられた近江大津京遷都もも国家事業成しとけ國
の隆昌と安泰の爲に偉大な功績をされた春天皇八年(六六〇)藤原の姓を賜り
人臣最高の大織冠と大臣の位を授けられ同年十月十六日薨せられた。
白鳳七年(六七八)公の長子定慧は、多武峯の山頂に父の墓を造り十重塔を
建し父の御霊を祀られた。大正元年(一九一二)方丈の神殿を建し御神像を奉安
した。当神社の創始である。当神社は古来国家鎮護の神子孫繁栄の神
また全国藤原一族総氏神として朝野の尊崇を受け現代に至っている。

旧別格官幣社 例大祭 十一月十七日

傍にある石燈籠/重要文化財/鎌倉時代の造立



談山神社境内案内図



きつい階段を登って行く



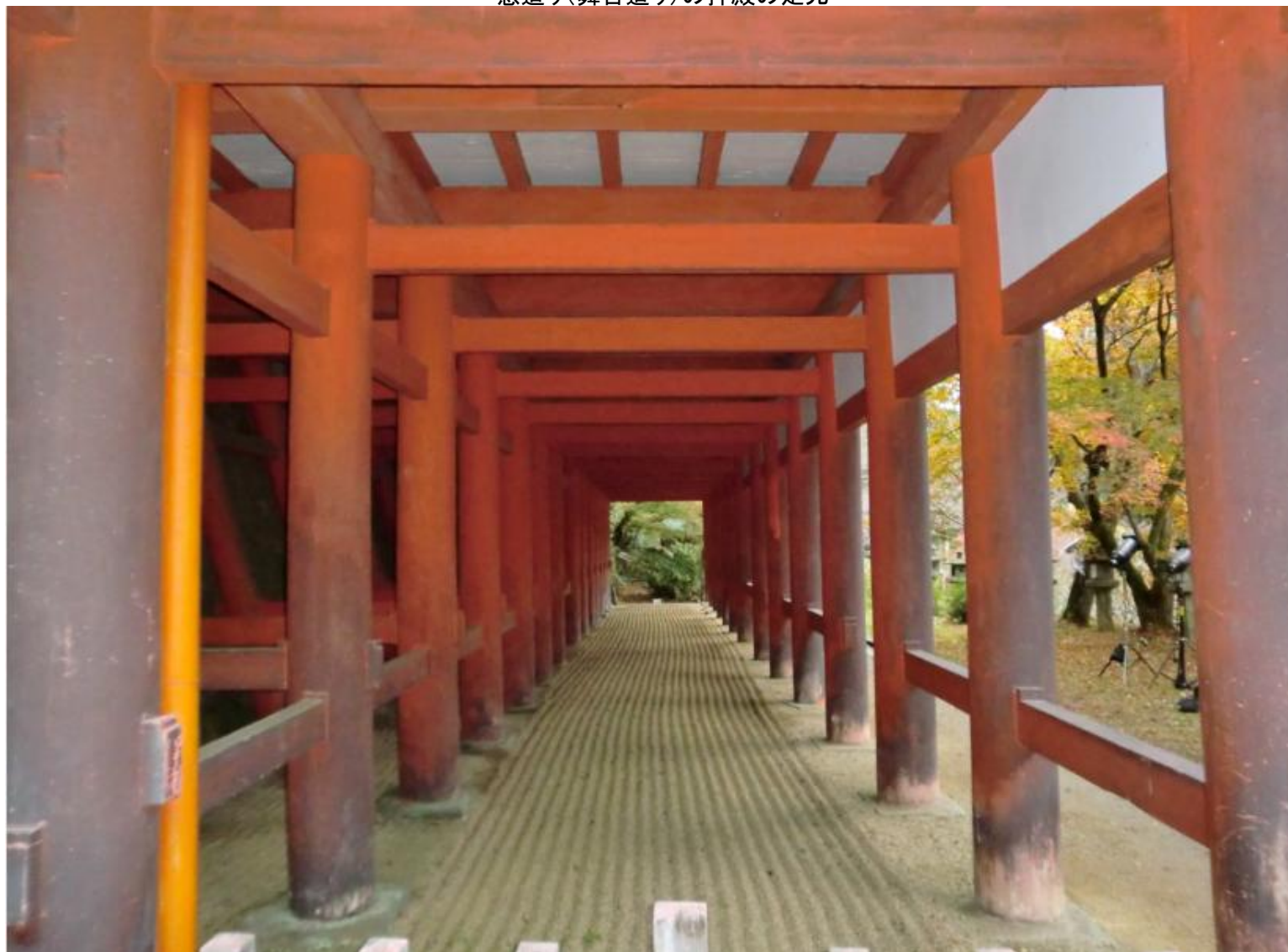
右手に拝殿が見えてきた



右手が拝殿、左手は楼門



懸造り(舞台造り)の拝殿の足元



これが楼門/重要文化財/江戸時代再建



楼門を入ると右手が拝殿、左手は本殿



右手の拝殿/重要文化財/室町時代再建



これは拝殿から見た本殿



三間社春日造りの本殿/重要文化財/江戸時代再建



振り返って見たところ



外廊に出て見たところ



こんな風情



正面前方に西宝庫が見える



これが西宝庫/重要文化財/校倉造/江戸時代建立





重要文化財
西宝庫

本殿に向って左右に位置する同形式の二つの宝庫は、校倉造りで元和五年（一六一九）の造営である。文化財の宝庫として知られる談山神社古来の名宝を収蔵して来た。

※宝庫は現在、各・博物館に寄託中。

さて、その左手に現存する唯一の木造十三重塔が建っている



重要文化財/室町時代(1532年)再建/桧皮葺/高さ16.17m/簷塔形式



簷塔(えんとう)形式とは二重以上の軸部をごく短い柱とし、斗拱を組まずに屋根を積み上げる形式のこと/簷とは庇(ひさし)のこと



基壇上に亀腹を築き、井桁に組んだ地覆桁を土台にしている

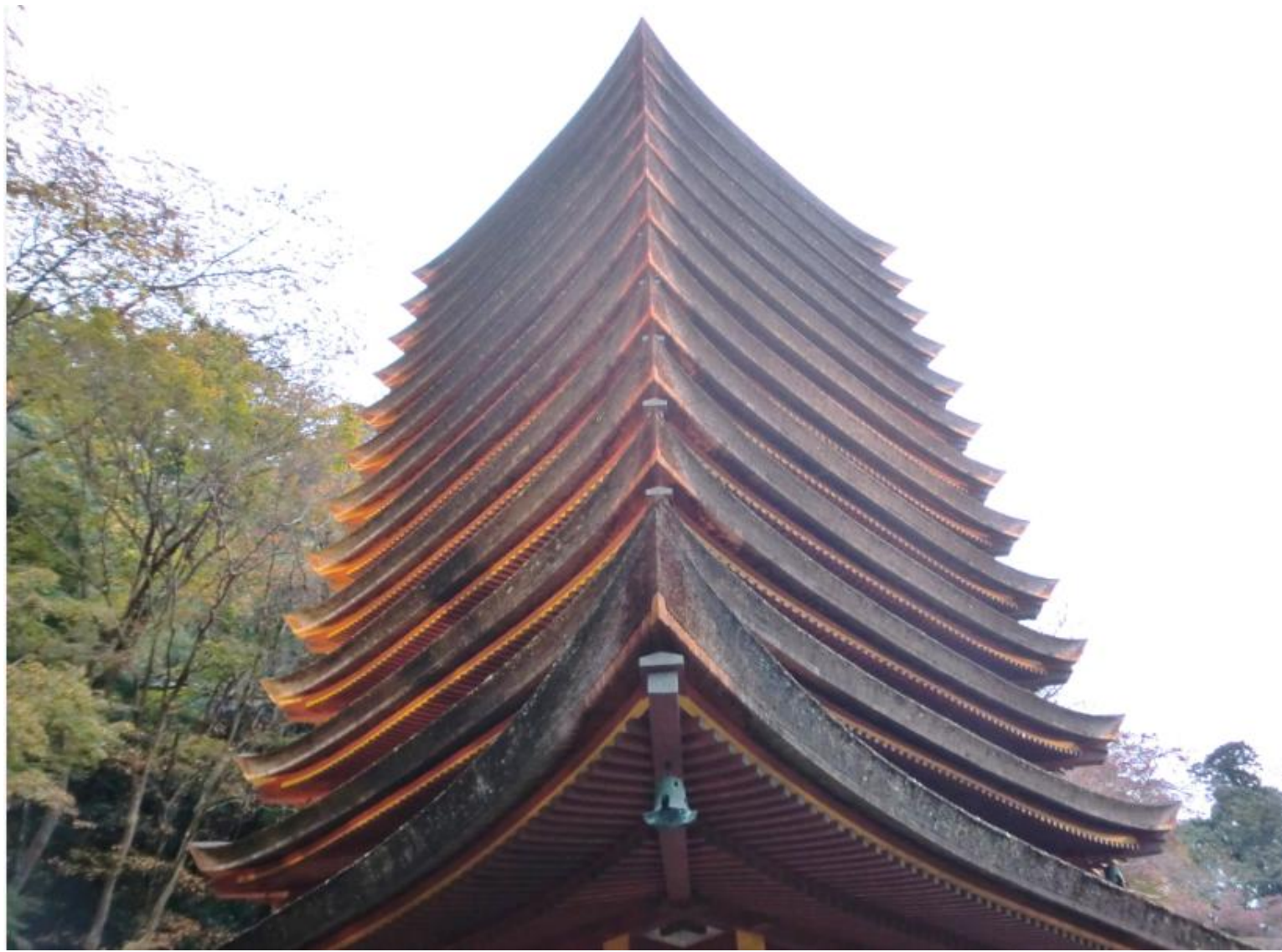


柱上の通肘木(木口が黄色の横架材)の上に斗拱を置かず直接軒桁が載る/二軒繁垂木、中央間板唐戸、脇間連子窓









十三重塔の向こうに権殿が見える



これが権殿/重要文化財/室町後期の再建



重要文化財

権ごん殿でん

天禄元年（九七〇）摂政右大臣藤原伊尹これたの立願によって創建され、実弟の如覚にやかく・多武峰少将藤原高光とほのみねが阿弥陀像を安置した元の常行堂。ここで室町の頃盛行した芸能「延年舞えんねんまい」は有名である。現存のものは室町後期の再建。



中備は珍しい葺束となっている



左側面を見たところ



これは比叡神社本殿/重要文化財/江戸時代建立





重要文化財

末社・比叡神社本殿

寛永四年（一六二七）造営
の間社流造、千鳥破風および
軒唐破風付、檜皮葺の小社
ながら豪華な様式をもつ。も
と飛鳥の大原にあった大原宮
で、ここに移築し明治維新ま
では山王宮と呼ばれた。

一間社流造で、千鳥破風と軒唐破風が設けられた檜皮葺の屋根を持つ





これは神廟拝所(旧講堂)/重要文化財/江戸時代の再建





重要文化財
神廟拝所(旧・講堂)
定歷和尚が白鳳八年(六七
九)父・讃足公(崇徳)の
建した妙楽寺の講堂で、塔の
正面に仏堂をつくる例証の特
色をもち、内部壁面には羅漢
と天女の像が描かれている。
現存のものは寛文八年(一六
六八)の再建である。



これは関伽井屋/重要文化財/江戸時代の建立



重要文化財

関あ伽か井い屋や

屋根はこけら葺で元和五年
一六一九の造営。この中の
井戸は、「摩尼まに法井ほうい」と呼ばれ
往古、定慧和尚じょうえが法華経を講
じたとき、龍王の出現があっ
たと伝えられている。

柿葺屋根の軒反りが美しい



これは三間社春日造の総社本殿/重要文化財/江戸時代の建立



日本最古の総社といわれる









こちらは総社拝殿/重要文化財/江戸時代の建立



正面と背面にも唐破風が設けられている



一段下がったところから十三重塔を見上げたところ/右手は神廟拝所(旧講堂)、左上は権殿



さて、ここは談山神社の西方にある西大門跡の北側




談山神社西大門跡の石仏

西大門跡の北側、石垣の上に置かれた石仏で、崗岩の自然石で作られている。高さ一・五一m、幅〇・七九m、奥行〇・三七mの石に、像座高〇・八八mを測る。一石造り出し、半肉彫り、左手は甲を表にした弥勒触地印で、光背部左右に、文永三年八月八日奉造立。

大勘進正延大工藤井延清とある。市内の在銘石仏としては最古（一二六六年）のもので、全体おたやかな表情と姿で、細身の石仏の系統に入る。

桜井市教育委員会

 歴史街道

これが西大門跡の石仏



こちらは旧多武峰妙楽寺への女人禁制石柱



女人禁制(にんをまじ)石柱

この地は、旧多武峰妙楽寺の西門の跡地で、
女性のまじりを禁じた結果地であった。
旧多武峰妙楽寺では中世から近世まで仏教
や修験道の影響を受け、石柱からの女性の
立ち入りを禁じた。

明治元年の廃仏毀釈は、ついに、
妙楽寺は談山神社となり、同時に、女人
禁制も解かれた。

この石柱は、女性の人權にかかわる歴史的
遺物として、後世に遺し、人權文化創造の
教材とする。

平成十五年三月

松井市
談山神社

参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/kawai5510/nara-tanzanjinija.htm>

http://www5a.biglobe.ne.jp/~kazu_san/tanzan.htm

<http://inoues.net/club/tabuho.html>

<http://www.omiyasan.com/other/post-443.php>

http://www.genbu.net/data/yamato/tanzan_title.htm

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Nr22.html>

<http://www.flow-stock.com/jisya-kinki/tanzan.html>

<http://www.shinbutsu-reijou.com/nara/tanzanjinija-1.htm>

<http://sakuwa.com/yw79.html>

<http://small-life.com/archives/08/07/1719.php>

